

無意識な人権侵害

氷上中学校 1年 芦田 真之介

ぼくの家近所に住んでいる、おばあさんとは、幼い頃からよく話したりしていた。

そんなおばあさんが、手押し車がないと歩けないようになってしまったと、母から聞いた。おばあさんは病院で入院しているとのことだった。おばあさんが退院したときに起こった出来事が、人権について考えさせられるきっかけとなった。

おばあさんが退院すると、ぼくの母と父の仕事場である、介護施設に入ることになったと聞いた。だが、介護施設に行くのは、週に一、二回。家にいる時間の方が圧倒的に長い。ぼくは心配になった。

ある日、ぼくが外に出ると、おばあさんが手押し車を持たずに畑に水をまいていたのだ。フラフラしているので、ぼくは危ないと思い

「ぼくが水をまきましようか」

と言った。ところがおばあさんに、

「大丈夫。自分でするから」

と少し怒り気味に言われた。どうして、人に親切にしているのに、怒られないといけないのだろうと思った。人に親切にすることは、常識であり、当然のことだと思っていたので、少し怒り気味に言われた時、腹が立ったし、ショックも受けた。この出来事を父に話すと、

「それは、相手ができることを縛ろうとしたんじゃないか？ 相手のことを助けないといけない存在として無意識に考えてたんじゃないか？」

と言われ、ぼくは、はっとした。確かに、いちいち細かいことで、制限されたり、禁止にされたりすることは、いい気持ちにはならない。それと同じで、高齢者に危ないなどと思い、その人ができることまで禁止にしていた。相手を自分より下だと思っていた。父に、

「職場ではどんな対応をしているの？」

と聞いた。

「その人ができることは見守り、できないことを手助けしたり、サポートしたりしているんだよ」

と言われた。つまり、ぼくはおばあさんと、行き違っていたのだ。確かに、人に親切にし、手助けするのは、当然のことだ。しかし、相手の気持ちや考えを把握せず、自

分の考えを一方的に押し付けるのは、相手からすると、ものすごくいやなのだろう。相手には、相手の考えや、したい行動などがあるのに、それを考えずに自分勝手な行動をし、相手を邪魔するのは、人権侵害なのではないかと思う。人は皆平等だ。だけど性別、考え、年齢、環境、身体能力などは、人それぞれ。だからこそ、相手のことを考え、尊敬や思いやりの心を持って行動することが、「人権の尊重」なのではないかと思った。

今までは、人権を大切にすることは、人にいいことをすることだと思っていたが、全部が全部そういうことではないことが分かった。相手にとっての、今一番してほしいことは何か。本当に手助けしていいのかなど、相手にとって、「一番の行動」をすることが大切なのではないかと思う。その行動こそ、人権を守る、大きな力になると思う。